

公明党の山口那津男代表は9日のNHK番組で、弾道ミサイルを相手国領域内で阻止する「敵基地攻撃能力」の保有是非を巡る議論は必要だと考へを示した。「日本周辺の安全保障環境が大きく変わり、（中國や北朝鮮の）技術的な進歩もある」と理由を語った。

山口氏はNHK番組で「これまで山口氏は敵基地攻撃に賛成」「ちょっと古めかしい議論だ」と否定的な見方を示していた。

岸田文雄首相は敵基地攻撃能力の保有是非を検討

自民・公明、安保戦略の未定

し、今年末までに外交・安保政策の長期指針「国家安全保障戦略」など3文書を新たに策定すると表明している。公明党は、夏の参院選後に自民党との協議を本

家安保戦略など3文書改定に関する政府への提言をま

大綱、中期防衛力整備計画を纏めていくべきだ」と述べた。

公明「議論必要」に

格化させる構えだ。

山口氏はNHK番組で

とある方針で、既に議論を開始した。

「現実にどうこの防衛が必要なのか、日米同盟の下でどういう役割を分担すべきなのか。この議論を深めた上で、国家安保戦略や防衛

戦略など3文書改定に関する政府への提言をまとめる方針で、既に議論を開始した。

從来否定的 安保環境の変化理由

を出したい」と語った。

日本維新の会の馬場伸幸共同代表は「きつちつ予算を付けて、能力を高めていくべきだ」と力説。国民民主党の玉木雄一郎代表は「適切な抑止力の維持は必要だ。党内で議論を深めたい」と述べた。

一方、立憲民主党的泉健太代表は「敵基地攻撃で何が防げるのか、与党は説明していない。アホでない」と強調。共産党的志位和夫委員長は、戦争を招くとして「断固反対だ」とした。